

社会福祉法人よるべ会

令和3年度事業報告書

※写真等は割愛しております。

令和4年6月9日

【社会福祉法人よるべ会】 令和3年度 職務執行状況報告書

〔1〕 年間計画執行状況

昨年（令和2年）度に続いて2度に亘るコロナ感染緊急事態宣言と、その延長が繰り返され、宣言解除後も感染者数は高止まりのまま不安は現在も続いている。法人内での各種行事の中止や縮小、そして自粛生活等、利用者の皆様には、2年継続で我慢の生活と活動をお願いしてきた。

しかし今年2月、「サテライトホーム」利用者1名が感染、次いで「わらべの杜」利用児童7名と職員2名、その後「よるべ沼代」利用者4名と職員1名の感染が続き、やっと4月初旬終結となった。この間の各事業所職員の献身的で迅速な対応と連携によりクラスターには至らずに済んだが、今後も「命と生活を守る」ことを大切な課題として取り組んでいかなければならない。

運営面では利用者欠員への対応で関係機関との連絡調整の動きが困難となったり、通所利用の中断や利用控等影響が続いた。又、就労支援の場では世界的な資源問題、コロナ禍での社会経済の混乱、原油高や円安、そして戦争等で価格高騰が続き、すでに事業継続困難となった養鶏作業をはじめ、他の作業への影響も大きく、今後難しい状況が想定される。

- | | | | |
|-----------|---|----------|-----------------------------|
| ○権利擁護の確立 | — | （権利擁護部会） | } 各部会で検討をまとめ、
提案、実施を図った。 |
| ○人材確保・育成 | — | （人材育成部会） | |
| ○業務の検証と改善 | — | （ICT 部会） | |
| | | （ISO 部会） | |

○職員労務管理の改善 —（労務管理委員会）

1 1月より6回の委員会を重ね、*令和4年度法改正事項に合わせた諸規則・規程等の検証、改正案作成、*給与見直し改善案作成を提案、2月職員全体の同意、3月理事会決議となった。

今年度「働き方改革」に沿っての検証、改善案を検討継続。

○よるべ沼代・隣接地購入計画

計画に沿って測量、境界標設置、図面作成が終了。現在、国有地払下げ手続き中で、その後行政手続きを行う。

○よるべ沼代外壁補修工事

9月入札、施工業者決定。10月着工。12月20日完了検査終了。

〔2〕事業運営（令和4年3月31日現在）

【事業運営】（令和4年3月31日現在）								
	よるべ沼代 （障害者支援施設）		コスタ・二宮 （障害福祉サービス事業所）		梅香園 （障害福祉サービス事業所）		わらべの杜 （福祉型障害児入所施設）	
実施事業	施設入所支援	定員40名	就労継続支援 B型	定員20名	就労継続支援 B型	定員18名	施設入所支援	定員40名
	生活介護	定員40名	生活介護	定員20名	生活介護	定員22名	短期入所	定員4名
	短期入所	定員4名	相談支援事業		相談支援事業		相談支援事業	
	相談支援事業							
事業所名	障害者支援センターぼけっと （就業・生活支援センター）		かめりあ・ボラリスホーム 共同生活支援事業（計8棟）		あずさの家 共同生活支援事業（計3棟）		どーむ （児童発達支援事業所）	
実施事業	就業・生活 支援センター	登録者 約530名	かめりあ ホーム	定員 33名	あずさの家	定員 7名	児童発達 支援事業	定員10名
	地域就労 援助センター		ボラリス ホーム	定員 13名	ポプラの家	定員 7名		
	相談支援事業				わたくも	定員 7名		

〔3〕理事会・評議員会開催状況

*監事監査 令和3年6月1日（岩渕・安西監事による文書監査）

*理事会

開催日	議案	出席者
6月10日	第1号議案 令和2年度事業報告(案)	理事7名
	第2号議案 令和2年度計算書類及び財産目録（案）	監事1名
	第3号議案 任期満了に伴う役員候補者の改選	
	第4号議案 任期満了に伴う評議員の改選	
	第5号議案 評議員選任・解任委員会開催について（案）	
	第6号議案 定時評議員会開催について	
	第7号議案 よるべ沼代外壁補修工事について	
	第8号議案 よるべ沼代外壁補修工事に伴う補正予算（案）	
	第9号議案 よるべ沼代運営規程改定（案）	
6月25日	第1号議案 理事長の選定	理事7名
	第2号議案 顧問の選任	監事2名
	第3号議案 評議員選任・解任委員の選任	
	第4号議案 よるべ沼代外壁補修工事入札について	
	第5号議案 特定相談支援事業所の廃止について	
10月21日	第1号議案 令和3年度資金収支第2次補正予算(案)	理事6名
	第2号議案 よるべ沼代土地購入について	監事2名
	第3号議案 令和3年度第2回評議員会開催について	
3月10日	第1号議案 令和3年度資金収支第3次補正予算(案)	理事7名
	第2号議案 令和4年度事業計画(案)	監事2名
	第3号議案 令和4年度当初予算(案)	
	第4号議案 諸規程の改定(案)	
	第5号議案 令和3年度第3回評議員開催について	

＊評議員会

開催日	議案	出席者
6月25日	第1号議案 令和2年度計算書類及び財産目録（案）	評議員 7名
	第2号議案 新役員（理事・監事）の選任について	監事 1名
	第3号議案 よるべ沼代外壁補修工事について	
	第4号議案 令和3年度第1次補正予算（案）について	
10月30日	第1号議案 令和3年度資金収支第2次補正予算（案）	評議員 8名
	第2号議案 よるべ沼代土地購入について	監事 1名
3月19日	第1号議案 令和3年度資金収支第3次補正予算（案）	評議員 7名
	第2号議案 令和4年度事業計画（案）	監事 2名
	第3号議案 令和4年度当初予算（案）	

〔4〕 契約・入札処理及び固定資産について

＊よるべ沼代外壁補修工事 入札4社（㈱オフィスコジマ・28,072,000 円）
（設計監理・創デザイン工房 1,540,000 円）

〔5〕 法人全体職員状況

【法人職員状況】（令和4年3月31日現在）																
職 種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぼけっと		かめりあ・ボラリス		あずさの家		どーむ	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管 理 者	1		1		1		1		1		1		1（兼）		1（兼）	
サ ビ 児 管	1（兼）		1（兼）		1		1				1		1（兼）		1	
医 師																
看 護 師	1		1（兼）		1（兼）											
栄 養 士																
生 活 支 援 員	14	5	2	5							4		4			
支 援 員		3	4	4	10	7			5	1					1	2
保 育 士							5	4								2
児 童 指 導 員							9	14								
相 談 支 援 専 門	3	1					1（兼）									
世 話 人											21		13			
運 転 手 介 助 員					3		1	1								
事 務 員	4				1											
そ の 他					1											
小 計	23	9	7	9	13	11	17	19	6	1	6	21	4	13	2	4
	32		16		24		36		7		27		17		6	
合 計	78	87	165													

〔6〕 主な会議等

会議名	開催数	開催日
全 体 職 員 会 議	5回	7/10.9/25.11/6.2/19.3/12
執 行 責 任 者 会	20回	4/13.5/11.6/8.6/17.7/13.8/10.9/14.10/12.11/10.11/29.12/7.1/5.1/11.2/8.2/12.2/15.3/1.3/17.3/18.3/23
執 行 委 員 会	12回	4/30.5/25.6/29.7/27.8/25.9/28.10/26.11/30.12/21.1/25.2/22.3/29
運 営 会 議	12回	4/13.5/11.6/8.7/13.8/10.9/14.10/12.11/10.12/7.1/11.2/8.3/8
ISO 品 質 委 員 会	12回	4/30.5/25.6/29.7/27.8/25.9/28.10/26.11/30.12/21.1/25.2/22.3/29
労 務 委 員 会	6回	11/18.12/3.12/22.1/6.1/26.2/1

〔7〕 労働安全衛生

＊職員健康診断を実施（7月1・9日）

〔8〕 広報活動

*かわら版 2回／年 夏号8月発行 冬号1月発行
 *ぽけっと通信 3回／年
 *ホームページ 順次更新

〔9〕 法人行事・研修等

令和3年度 行事・研修報告		
月	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	1(木) 辞令交付	
	3(土) よるべ会保護者会役員会	
	17(土) よるべ会保護者会総会(書面表決)	
	20(火) みのり会総会(書面表決)	
5	29(土) みんなのつどい(中止)	19(水)～20(木) 福祉協会全国施設長等会議(横浜)
6		1(火) よるべ会監事監査
		10(木) よるべ会理事会
		25(金) よるべ会評議員会・理事会
7	7(水) 健康診断(コスタ・わらべ)	10(土) 全体職員会議
	15(木) 健康診断(よるべ沼代)	
	17(土) 梅香園納涼大会(中止)	
	31(土) よるべ夏祭り(中止)	
8	12(木)～15(日) 夏休み	
9	3(金) 梅香園旅行	25(土) 法人職員研修会
	5(日) 健民祭(よるべ沼代・わらべの杜)(中止)	
	25(土) 歯科検診(よるべ沼代)	
	25(土) よるべ会保護者会(中止)	
10	17(日) よるべふれあい祭り(中止)	21(木) よるべ会理事会
	23(土) 秋の感謝祭(梅香園)	29(金) よるべ会評議員
11	12(金) 予防接種(コスタ二宮)	6(土) 全体職員会議
	19(金) 予防接種(よるべ沼代)	
12	4(土) 県西地区文化事業(中止)	
	11(土) よるべ会保護者会・清掃(中止)	
	17(金) よるべ沼代クリスマス会	
	18(土) コスタ二宮クリスマス会	
	18(土) わらべの杜クリスマス会	
	28(火) よるべ沼代餅つき	
	29(水)～1/3(月) 冬休み	
1	4(火) 仕事始め	
	7(金) どんど焼き(わらべの杜)	
	8(土) よるべ会新年会	
	14(金) どんど焼き	
2	19(土) 内科検診(よるべ沼代)	19(土) 全体職員会議
	19(土) よるべ会保護者会役員会	
	27(日) 消防団合同訓練(よるべ沼代・わらべの杜)	
3		10(木) よるべ会理事会
		12(土) 全体職員会議
		18(金) よるべ会評議員会

【よるべ沼代】 令和3年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

よるべ会の基本方針に基づき、質の高いサービス提供ができる様、計画的に目標設定を行い、様々なニーズに対応する。入所利用者の高齢化・重度化に対応するために、「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」事業をさらに充実させ、それぞれの事業で必要な支援を展開します。また、「コスタ二宮」「梅香園」「ぽけっと」「わらべの杜」や、共同生活援助事業等と常に連携を持ちながら、利用者一人一人の存在を尊重しつつ、自立に向かう意識を高める。その為の力を生み出す道筋づくりと、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施します。

〔2〕 取り組みと状況報告

コロナ渦で帰宅の中止や面会の制限、外出や外食の機会の減少、行事やクラブ活動の中止、縮小等、楽しみの場面が少なくなったが、施設内で工夫し可能な形で余暇支援を実施している。短期入所については、状況を見ながら緊急性の高い方のみ受入れを実施。感染予防として毎日の検温、体調管理、消毒の徹底等の対応を継続していたが、3月中旬にコロナ感染者（利用者3名、職員1名）が判明。他部署からの応援、県、市からの指導、助言を受け対応、感染の拡大は回避できた。また、年度内4名の退所があり欠員状態が続き大きな減収となってしまった。

〔3〕 次年度に向けて

感染対策、虐待防止への取り組みの強化に向け、会議の場の設置、検討を行う。また、業務継続に向けた計画の見直しも進める。高齢者や行動障害のある方について、本人の状況に合った生活環境がどこまで提供できているのかを職員間で十分に検討し、本人にとってよりの良い環境に向けて他施設や介護保険制度への移行を含め、関係機関との連携、情報共有をはかりながら進める。また、入所の欠員が続いた今年度の状況を踏まえ、関係機関との連携の強化、短期入所、通所の利用の受入れを進め運営の安定を図りたい。

〔4〕 利用者状況

■ 年齢区分									
最小年齢：18歳				最高年齢：87歳				(令和4年3月31日 現在)	
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	1	3	2	3	7	5	2	50	23
女	0	3	0	1	5	5	2	56.5	16
計	1	6	2	4	12	10	4	52.6	39
■ 障害支援区分									
(令和4年3月31日 現在)									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	0	0	0	0	4	9	10	5.3	23
女	0	0	0	0	3	8	5	5.1	16
計	0	0	0	0	7	17	15	5.2	39

■施設入所支援（定員 40 名） 開所日数及び利用者数・利用日数 （令和 4 年 3 月 31 日 現在）

施設入所支援	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	24	24	24	23	23	23	22	22	22	22	22	23	274
延べ日数		690	713	690	692	682	660	682	654	682	682	616	683	8126
実人数	女	16	16	16	16	16	16	16	16	16	14	14	16	188
延べ日数		471	495	478	468	492	448	496	466	434	434	392	486	5560

■生活介護（定員 40 名） 開所日数及び利用者数・利用日数 （令和 4 年 3 月 31 日 現在）

生活介護	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		22	23	22	23	22	22	23	22	22	22	20	23	266
実人数	男	26	26	26	25	25	25	24	24	24	24	24	25	298
延べ日数		565	575	564	554	506	511	537	511	510	504	455	553	6354
実人数	女	16	17	17	17	17	16	17	17	17	15	15	17	199
延べ日数		342	370	361	353	357	333	378	349	330	295	289	366	4123

■令和 3 年度 新規入所者年齢

	20 歳未満	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	計
男	1	0	0	0	0	1
女	0	0	0	1	1	2

■令和 3 年度 退所者状況

	グループホーム	自宅	介護施設	入院	その他	計
男	0	1	0	0	1	2
女	0	0	1	1	0	2

■工賃実績（前年対比） 4 月～3 月までの一人当たりの月平均金額

	令和 2 年度実績	令和 3 年度実績	備 考
生活介護（生産型）	¥2,871	¥3,056	養鶏班 11 名
【収支】収入¥4,055,202／支出¥5,338,047（内工賃¥403,460）／利益 △¥1,202,925			
【育成状況】3/31 現在 羽数 900 羽（中雛 201 羽）産卵数 109,315 個（月平均 9,109 個）			

〔5〕短期入所・日中一時事業

■短期利用者状況（定員4名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	2	1	2	1	1	0	1	0	2	7	1	2	20
延べ人数	4	3	3	3	2	0	5	0	3	12	1	2	38
延べ日数	15	8	9	10	5	0	15	0	10	36	1	37	146

■日中一時利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
延べ人数	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
延べ時間数	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21

〔6〕令和3年度まとめ※事業所の課題および実施状況（評価 ○・△・×）

具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 ・虐待防止委員会を作り、ヒヤリハットやKW等からの事案について検討、職員間で情報共有を行う。研修や自己チェックを実施し、虐待や権利擁護に対する意識の向上に繋げる。	課長	虐待防止委員会が出来、虐待や権利擁護に対する意識の向上に繋がった。（改善案が実施できた。）	虐待防止委員会を設置、運用を始めたが、毎月の開催には至らなかった。自己チェックや会議等を通してヒヤリハットや人権についての意識は高まったと感じるが、改善案の実施まで至らなかった。	△
【人材育成】 知識・技術の向上を図る為、グループに分かれ個別課題（1G：認知について 2G：強度行動障害について 3G：リスク管理について 4G：機能維持について）に取り組む。外部研修などへの積極的に参加する。	課長 各主任	研修や、グループ検討会を通して得た事から、新たな取組みに繋がり、活用する事が出来た。	グループの個別課題を通じて、利用者に合った支援に繋げる事が出来た。全体的に課題取組みの進みに差が出てしまった。外部研修に関しては、映像研修等への参加を進める事が出来た。	△
【業務の検証と改善】 ・必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。各日中活動班、寮で改善案を出し会議の場で活動の報告、状況の共有を進める。	各主任	・業務内容の見極めが出来、日中活動班や寮の改善に繋がった。	・寮会議・サービス会議を通して、業務の確認と見直し、日々の流れ等の再確認を行ない、現在の状況に合わせ改善を行った。	○
・職場での働きやすい環境づくり、環境美化を進める		・職場の整理整頓が習慣化。職場での働きやすい環境づくり、環境美化への意識が高まった	・環境美化等を継続して進めているが、寮内や会議室などの整理整頓に関して習慣化には至らなかった。	
【地域社会との連携】 地域社会や関係機関との連携を図り、交流を深める。地域やボランティアとの交流の工夫と検討を行う。	各主任	地域や関係機関と交流の工夫や検討ができ、情報共有などができた。	感染予防対策を検討し、クラブ活動を実施したが、伝わらない部分もあり、予防対策の伝え方やクラブの実施方法を今後も検討する必要がある。	△
地域の会議への積極的な参加				

〔7〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
6/9 (木)	【夜間訓練】 避難・初期消火・通報訓練・連絡網訓練	夜勤職員 全利用者	地震を想定しての訓練だったが、エレベーターが使用不可の状況下での移動について、各利用者の特性を考慮した方法を検討。
2/21 (日)	【地域消防団との総合訓練】 休日体制での避難・消火・通報訓練	出勤職員 全利用者	避難場所を食堂としたが、火災発生への対応を考慮し、避難場所の変更も今後検討。

〔 8 〕 リスクマネジメント（事故報告）

種 類	件 数	内 容 等
転倒/転落	21	廊下等移動時（10）／居室（11）／トラブル（1）
ケガ	1	車いすから転落
服薬	7	落薬（食堂）
利用者トラブル	6	異性へのボディータッチ／他害／他者の物を無断で持ち去る
車両	1	車両事故による物損
その他	16	施設外への飛出し（4）／職員等への暴力（3）／異食／コロナ感染 他
計	52	

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告 1 件

日付	種類	内容	対処	対応・対策
3/13	感染症	新型コロナウイルス感染 （計 4 名）	寮内療養	県、市からの指示、助言。感染症マニュアルに沿って感染拡大防止。（4/6 収束）

〔 9 〕 苦情解決 ■ 苦情件数 0 件

【地域生活相談支援室地域生活支援課】令和3年度事業報告書

〔1〕運営目標

若い世代の方々は徐々に各々の目標を見定めて、それに向けた支援を求められ、高齢の利用者の方々には、それぞれのライフステージに応じた支援が必要とされています。

こうした幅広い世代やニーズがある利用者の方々を念頭に利用者主体の支援を実施していきます。まだまだコロナ渦が続くことが予想される為、ホームの生活において感染の防止、拡大の防止に努め、必要な対策を講じ安心、安全な生活支援の提供を行います。

事業所名	利用定員	住居数	名称
かめりあホーム	33名（うち1名はサテライト住居）	6か所	ナスカの家、一色ハウス、湘南ビレッジ かめりあホームⅠ、かめりあホームⅡ ラバ・ゆりが丘
ポラリスホーム	13名	2か所	ポラリスホーム、エピナールホーム

〔2〕取り組みと状況報告

今年度もコロナウィルス感染の予防と、感染症への対策をホームの日々の生活の支援において最優先として取り組みをし、その実行をしてきた。

ワクチン接種については、利用者自身やそのご家族の希望を踏まえながら、可能な限りタイムリーな接種が進められるように計画を立てて、実施に向けた情報収集を行い、漏れなくその対応が出来た。また、勤務する職員、非常勤職員も同様に接種状況を把握するようにして、自治体の優先接種機会を2自治体から得られたため、その結果、比較的早期に接種率を100%近くにすることが出来た。

しかし、感染への対策をしていつつも、2月1日にサテライトホーム利用者に症状が見られ、簡易検査の結果陽性が判明し療養することとなった事例や、ホーム内で複数の利用者が一斉に発熱したことから、そのホーム自体を隔離して感染拡大防止の対応をしたが後の検査で陰性と判明した事例が実際には起こった。この度の感染力がとても高いと言われていたウィルスにおいては、ホームという小集団の生活環境で感染が生じた時の対応の難しさを感じた出来事だった。

目標にあるライフステージに応じた支援ということでは、高齢な利用者の支援では、障害福祉サービスだけではなく、介護保険サービス、医療との連携を進め、デイサービスの利用、訪問診療、訪問マッサージ利用等、利用者のニーズに即した形となるように取り組んでいる。

一方、若年世代の利用者については、多くが企業就労している方々であり、日々のホームでの生活がその方の就労を支える役割であることを意識して関わりを続けた。その結果、ご本人の気持ちをうけとめて、1名の方がサテライトホームに、1名の方が単身でのアパート生活に移行をされた。その移行のプロセスでは、課内だけではなく、相談支援、就労支援、自治体の生活支援といった他機関、他分野と協働することによって、利用者の願いや希望が具体化していく、ということも実体験し、その大切さを再認識した。

〔3〕次年度に向けて

幅広い世代の利用者一人ひとりのニーズをきちんと捉えた個別支援計画を立案する。
その支援を提供していくために、職員一人ひとりが正しい支援スキルを備え発揮できるように、学びを怠らず教育の機会を持つ工夫をしていく。

正確性や効率性を念頭に置いた業務の在り方を意識して、改善への視点を忘れずに、スムーズな業務運営が出来る集団を目指す。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和4年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	1	9	1	7	5	4	3	44歳	30
女	0	2	0	1	1	3	5	59歳	12
計	1	11	1	8	6	7	8	51歳	42

■障害支援区分（令和4年3月31日現在）								
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分
男	1	0	16	6	5	1	1	2.7
女	0	0	3	5	4	0	0	3.1
計	1	0	19	11	9	1	1	2.9

■在所要数（令和4年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	0	1	6	6	5	1	5	6	30
女	0	0	1	2	2	1	3	3	12
計	0	1	7	8	7	2	8	9	42

■開所日数および利用者数・利用日数（令和4年3月31日現在）														
【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	21	21	21	21	21	21	21	21	21	22	21	20	252
		延べ利用日数	624	628	623	637	624	593	619	620	624	642	545	582
実人数	女	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	139
		延べ利用日数	358	365	360	372	372	360	372	319	333	334	308	336

【ボラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	11	12	12	12	12	12	12	11	11	10	10	10	135
延べ利用日数		330	355	360	372	342	330	338	330	334	303	280	309	3983
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

■令和3年度 新規入所者年齢（令和4年3月31日）						
	10～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	計
男	2	0	0	0	0	2
女	0	0	0	0	0	0

■令和3年度 退所者状況（令和4年3月31日）			
	自宅	介護施設	他
男	0	0	3
女	0	0	1

〔5〕 短期入所・日中一時事業 なし

〔6〕 相談支援 なし

〔7〕 令和3年度 まとめ ※各事業所の課題および実施状況

(評価 ○・△・×)

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護の確立	・学習の場、研修への積極的な参加等の機会を作る。 ・自己チェック表を活用。自己評価、課題の抽出、改善を図る。	全職員 全世話人	日常の記録に権利擁護に関する記述が増えた (意識の向上、改善が実感できた。)	上半期に実施した権利擁護に関する自己チェック、啓発のポスター、法人職員研修に非常勤の方も一緒に参加するなど、上半期は目的に沿った活動ができた。後期は他機関の実施した研修参加、その内容を課の全体へのフィードバックを計画していたが、少し遅れているため、年度内で実施。	○
人材の確保育成	意思決定支援について、理解を深める。	全職員	意識の向上、改善が実感できた。	課として意思決定支援についての理解を深めたいと考えていたが、意図したような活動ができず、必要な情報収集としての研修参加機会も現時点で獲得できなかった。次年度に継続したい、と考える。	△
業務の検証と改善	業務状況を確認。必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。・働きやすい環境、職場づくりを進める	全職員	各事業所ごとに、取組みを実施、評価する。	ウィークリー業務、マンスリー業務などカテゴリした形で定番化したこと、昨年度同様、課としてペーパーレス化に尽力したことなど業務改善は年間を通して取り組むことができた。	○
地域社会との連携	事業所の得意なこと(人、物、場所等)を活用し地域との関わりを深める	全職員	地域との交流の機会が増えた	コロナ禍の状況を踏まえて、イベントや集団での活動はなかなか現実的に難しいと考えて、個別のケースのニーズに対して、必要な社会資源、地域資源がマッチする場合、そのマッチングを行ってきた。1名の利用者に日常生活自立支援事業を、2名の利用者に訪問診療を、結び付ける取り組みを行った。こうした事例は、他の利用者が興味や有益性をお持ちになる可能性もあるため、その周知などもしていきたい。	○

〔８〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月	自主点検	職員 利用者	各 GH の検査対象（消火器等）を基準と照らし て検査した。年間 2 回、業者委託による検査を 行った。
10 月 3 月	【避難訓練】 大規模災害訓練（避 難・通報・誘導）		各 GH が大規模災害にあった時に、世話人の誘 導の元、速やかに避難場所までの移動ができた。
まとめ	年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。		

〔９〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒/転落	0	
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	0	
その他	0	

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告

■＜重大事故＞（県・市町へ報告件数）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
--------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

〔１０〕 苦情解決

苦情件数 0 件

【 地域生活相談支援室相談支援課】 令和3年度事業報告書一

〔1〕 取り組みと状況報告

- 1 記録ソフト「ミスヘルパー」に利用されている方々の基礎情報の入力を年間かけて適宜行い、情報としてすぐに確認できるように整備を行い、併せてサービス等利用計画の申請者情報の見直しと更新も行った。
- 2 複合機の導入に合わせて受給者証の複写の管理のデーター化を行った。
- 3 緊急事態宣言解除後は、月ごとのサービス更新のための聞き取りは訪問し対面で行い、モニタリングは電話や ZOOM（オンライン）で対応をすることを基本とした。しかし、コロナウィルスの感染者が急増してきた際には、再度月ごとのサービス等利用計画の書類作成のための面談やケース会等は電話や ZOOM（オンライン）で対応を行った。

4 契約ケース件数

○4月年度開始時	240 ケース	
○支援の終了ケース	12 ケース	*理由:私的事由2件、介護保険への移行3件、一般就労1件、逝去2件、病院への移行1件、単身生活の開始2件 相談事業所の変更1件
○支援の開始ケース	2 ケース	
○年度終了時の契約ケース	230 ケース	

令和3年度 地域生活支援相談室 相談支援課 支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	30	29	28	34	32	37	12	20	20	21	14	32	309
サービスの更新 (計画案・計画)	13	13	17	18	26	15	14	15	12	17	20	4	184
サービスの追加・変更 (計画案・計画)	0	1	2	0	0	2	5	0	0	2	1	3	16
ケース会議	2	2	6	6	2	1	7	4	10	9	4	12	65
家庭・事業所訪問	0	1	0	0	1	0	5	3	2	1	0	2	15
個別面談 (電話対応含む)	12	8	3	6	2	8	15	5	7	8	12	13	99
見学(体験)同行	1	3	0	1	0	0	2	2	1	3	2	2	17
その他支援	1	1	0	1	3	2	0	4	3	0	4	2	21
支援の終了	1	1	1	1	0	2	0	0	2	1	2	1	12
支援の開始										2			2
	60	59	57	67	66	67	60	53	57	64	59	71	740

〔2〕 令和3年度年間まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	<u>権利擁護の確立</u>	課長	質の高い計画づくり	維持審査での指摘を受けて、達成評価の視点を『ご本人、ご家族が満足する計画が1ケースでもできたか？⇒分かりやすい内容にするための学習が出来たか？』に修正。ご利用されるみなさんに分かりやすい内容となっているか？読みにくい文章となっていないか？事業所の個別支援計画に反映できる課題の立て方と内容になっているか？公文書として行政に提出するための整理された枠組みやフォント等のレイアウトとなっているか？を視点に課内会議で学習を行い、日々の記録を相互でチェックしてきた。	○
	方法：その人らしい生活のための計画づくり				
人材育成	<u>職員のスキルアップ</u>	課長	職員の専門性が高まり、計画に活用できる	令和3年6月～令和4年2月にかけて全13回基幹や自立支援協議会主催の研修に参加。支援コンサルとして神奈川保健福祉大学の岸川教授をお招きしてのケース会も有意義でケースを進めていくうえで大変参考になった。次年度も積極的に研修等に参加をして知識等を習得し、お一人お一人の課題に対してタイムリーで、スピーディーな支援を心掛けていきたいと考えている。	○
	方法：相談支援専門に必要な力を維持・向上するための研修を適宜受講				
業務の検証と改善	<u>業務の検証と改善</u>	課長	効率よく業務を行い、満足のいく計画が作れる時間と心の余裕が出来る	複合機の導入で法人のNASと組み合わせをして受給者証のデーター管理をしてペーパーレスを進めた。ドキュワークスを活用して資料作りの時間短縮を図った。myBridge(名刺管理アプリ)を活用してデーター管理し探す手間を省き時間効率を計り、ペーパーレスを進めた。	○
	効率の良い相談支援体制の確立			記録等の2次的な支援の時間を短縮することで、本来の利用されている方々の声を聞く、情報を集める、考える等々の支援に時間を割くことが出来ました。	
	ICT（情報通信技術）の活用			福祉サービスのサービスとして利用されている方々が+αの利用調整やサービス提供を少しでも喜んでもらえるように、次年度もタイムリーで、スピーディーな支援を行っていきたい。	
	<u>地域との連携</u>	課長	関係機関との連携が図れる	1年間かけて取り組んできた老人保健施設への移行のケースを通して、様々な学習をする良い機会となった。	○
	老障介護問題について、ケースに応じて横のつながりの強化／地域包括ケアシステムなどから情報収集			高齢者施設の検索、見学、電話での問い合わせ、介護保険の制度の学習、ケアマネとの連携、行政との調整、入所していた施設との連絡調整と情報共有、等々一つのケースで様々なことを知識として得る良い機会となった。	
				65歳での介護保険への移行等、今後起こり得る課題に対して関係機関等と連携をして、お一人お一人にとって良い選択となるように調整をしていきたい。	

【コスタ・二宮】 令和3年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

① 【就労継続B型＝食品部門】

・食品作業を主体とし、商品がすべてオリジナルである為の強みを生かし、利用者の適性活かし作業提供していきます。安定した工賃の支給を目指していきます。

【生活介護＝SP企画】

・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供していきます。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行っていきます。

② 【その他】

・充実した余暇支援の提供をしていきます。

〔2〕 取り組みと状況報告

① 今年度も、製パン班・製麺班ともに“コロナウイルスの影響”受けることなく収入は昨年より微増となりました。下半期あたりから、社会情勢の影響で副資材・原材料等の値上げが見られはじめましたが、事業所内努力にて何とか収入を圧迫しないよう工夫してきました。支援に関しましては、班別会議の中で支援計画の進捗状況等を確認し合い他班の利用で幅のある支援内容に努めました。

② SP企画では“コロナ禍”のなか、感染対策を更に強化し利用者の方が安心して活動できるよう配慮し、お陰様で休止等の大きな影響なく活動できました。生産活動では新たな受注作業も入り作業内容が利用者にとって、有意義でマッチしたものとなっています。

③ 余暇支援としては、今年度も昨年同様に小グループでの活動を基本として実施しました。

◆3年間の収支状況

	製パン班(B型事業)		製麺班(B型事業)		SP企画(生活介護)	
令和元年度	(収入)	12,378 千円	(収入)	6,953 千円	(収入)	2,358 千円
	(収支)	369 千円	(収支)	－148 千円	(収支)	564 千円
令和2年度	(収入)	12,123 千円	(収入)	6,468 千円	(収入)	2,428 千円
	(収支)	1,192 千円	(収支)	74 千円	(収支)	224 千円
令和3年度	(収入)	12,567 千円	(収入)	6,964 千円	(収入)	2,121 千円
	(収支)	1,969 千円	(収支)	466 千円	(収支)	446 千円

〔3〕 次年度に向けて

① 「B型事業」では副資材・原材料の値上げに対し、秋に再度小麦が値上げするという情報基に価格の調整を行っていきます。「生活介護事業」では先ずは、4月からの新規利用者4

名の方の安定した利用目指し支援していきます。

- ② 利用者の楽しみである余暇支援を、“ウイルス感染症対策”を施しながらなるべく多くの機会を実施できるように努めていきます。

〔４〕利用者状況

【利用者状況】									
■年齢区分（令和4年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男(B型)		2	3	3	2	2			12
女(B型)		3	1	3	1	3	1		12
男(生介)		1	4	4	1	2	1		13
女(生介)			2	1	1	1	2		7
最小年齢：19才 ・ 最高齢 84才									
■障害支援区分（令和4年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男(B型)	1		4	4	3			2.6	12
女(B型)	3		2	5	1	1		2.3	12
男(生介)				5	7	1		3.6	13
女(生介)			2	2	2	1		3.2	7
■在所年数（令和4年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	
男(B型)			1	1	2	3	1	4	
女(B型)		1	3	1	4	2	1		
男(生介)			5	4		1	2	1	
女(生介)			4	1	1	1			
■開所日数および利用者数・利用日数（令和4年3月31日現在）									
【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	22	23	21	21		
実人数	男	14	14	14	13	13	13		
延利用日数		294	256	295	259	237	258		
実人数	女	8	8	8	8	8	8		
延利用日数		133	120	137	133	124	143		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		21	21	20	21	21	20	249	
実人数	男	13	13	13	13	13	13	❖	
延利用日数		256	262	253	228	226	256	3,080	
実人数	女	8	8	7	7	7	7	❖	
延利用日数		138	131	125	120	115	118	1,537	
【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	22	23	21	21		
実人数	男	12	12	12	12	12	12		
延利用日数		258	223	260	249	203	238		
実人数	女	12	12	12	12	12	12		
延利用日数		238	212	248	243	218	234		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		21	21	20	21	21	20	249	
実人数	男	12	12	12	12	12	12	❖	
延利用日数		235	231	245	221	219	258	2,840	
実人数	女	12	12	13	13	13	13	❖	
延利用日数		236	241	239	218	200	255	2,782	

■工賃実績（前年対比）令和3年4月～令和4年3月までの一人当たりの月平均			
	令和2年度 実績	令和3年度 実績	備 考
生活介護 （生産型）	目標(5,500)	目標(5,500)	・日本リユース(ハルメク組み立て) ・小田原市観光協会(提灯組み立て)
	6,723	4,450	
就労継続支援B型	目標(21,000)	目標(21,000)	・製麺、製パン作業 ・施設外支援(柳川乳業)
	20,642	22,978	

〔5〕短期入所事業 〔6〕相談支援 ＊いずれも事業の実施無し

〔7〕令和3年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	事業所内研修の定期的な実施。利用者と職員の権利擁護の会を開催。人権侵害に係る自己チェックや虐待防止チェックの実施。	課長 主任	定期的に学習の機会を設け、自己チェックを実施し、評価できたか？	年間の予定通り、自己チェックを2回、部内研修を2回実施しています。権利擁護と人権を中心に、常勤・非常勤職員への学習の機会を設定できて効果が得られました。動画を使用すると理解しやすい為、今後も積極的に取り入れていきます。	○
人材育成	法人内他部署や他施設への見学研修を計画し、研修報告実施する。人事考課制度を有効活用し、人材育成の機会とする。	施設長 全職員	他施設見学で学んだことが、職員の成長につながり、現場での実践に活用された。	施設見学は1回の実績で、見学先で学んだ情報や対応を業務に取り入れ効果を得る事が出来ました。人材育成は研修と人事考課が有効でした。今回体験版eラーニング活用し、職員と利用者向けSST教材として有効性を感じました。次年度に繋がります。	○
業務検証と改善	意見抽出の機会と、検証・改善・評価を定型化する。支援環境チェック基に、職場環境の点検と改善を定期的に実施する。	施設長 課長	業務改善の機会がシステム化され、安全でよりよい職場環境と支援になった。	ミーティングとコスト会議と支援環境チェックで、業務改善にかかわるチェックと改善につながる検証の仕組みが確立されています。次年度も他部署と連携し、情報共有し有効なツールや仕組みを取り入れていきます。	△
地域社会と連携	パラスポーツの会との連携。「ふれあい祭り」「二宮商工まつり」等の、地域行事へ積極参加。工業団地や二宮町、近隣自治会との関わりを探し、実践する。	課長 主任	地域社会との具体的な連携ができた。地域の役に立つ活動ができた。	地域イベントがコロナの為に中止となり、制限の中で可能な限り取り組みました。パラスポーツは定期的に活動参加し、散歩時のゴミ拾いも継続中。子ども食堂や二宮町社協との関わりもできました。	○

〔 8 〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
9 月	避難訓練	全利用者	火災を想定しての避難訓練実施。
R4 年 3 月	避難・通報訓練	全利用者	地震を想定しての、避難・通報訓練の実施。

〔 9 〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	0	
物品破損	0	
その他	2	・送迎中の事故の発生(1 件) ・ S P 企画活動に関して、地域住民からの苦情の発生(1 件)

《重大事故》 ※県・市町へ報告

*特になし

〔 1 0 〕 苦情解決

苦情件数 0 件

【 梅香園 】 令和 3 年度事業報告書

〔 1 〕 運営目標

- 1 利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
(利用者さんの最善の支援を検討します。)
- 2 利用者さんの目標達成に向けた取り組みを推進します。
- 3 研修を充実させて職員のスキルアップを図ります。
- 4 地域活動・行事に参加・協力するなど啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。

〔 2 〕 取り組みと状況報告

- 1 梅香園及びグループホームから合計で 159 件のひやりハットが提出されており、リスクマネジメント委員会が中心となって、ひやりハットを分析して対策をとることで、未然に事故等を防げたり、改善することが職員に定着しています。「ひやりハット」が利用者の安心して安全なサービスにつながってきています。
行事については、引き続きコロナ禍のため、誕生会において行事や季節感を盛り込むなど工夫して実施することが出来ました。
給食委員会では、利用者参加型でメニューの希望や選択メニューでの準備等が出来るようになっていきます。
- 2 『アートに挑戦』をテーマに、利用者と担当者が個別の時間や活動の中で作品作りに取り組み、素晴らしい作品を全員が誕生会で発表することが出来ています。
- 3 職員研修会を企画しましたが、コロナ禍のため開催することが出来ず、グループホーム職員対象の外部研修会等にも参加することが出来ませんでした。
- 4 地域活動・行事等については、コロナ禍のため地域では開催されておらず、園でも利用者と職員のみで行事を行ったため、地域との交流は深めることが出来ない状況が続いています。「は一とふる通信」は広報委員会にて協議していますが、発行には至っていません。

〔 3 〕 次年度に向けて

- 1 リスクマネジメント委員会は、引き続き事故防止の観点から「ひやりハット」を積極的に提出できるよう働きかけるとともに、「虐待防止委員会」として機能も加えて、利用者の安心安全に取り組んでいきます。
行事等については、各担当が中心となって協議していき、給食委員会は、利用者主体となって、楽しめる内容となるよう支援していきます。
- 2 利用者さんの新たな目標達成に向けた取組みを個別の時間を有効に使いながら進めていきます。

3 職員研修会は、企画立案するとともに、インターネットを活用した研修に参加出来るように環境整備をしていきます。

4 コロナ禍のため、行事等は計画を立てにくい状況にありますが、感染対策の上、利用者さんが楽しめるように、工夫した形で開催できるようにします。また、園の広報誌である「はーとふる通信」を広報委員会に参画して協力していきます。

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和４年３月３１日現在）

最年少：１９歳 ・ 最高齢：８６歳

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	1	2	5	7	7	3	2	47.0歳	27
女		4	5	6	5	1	1	43.3歳	22
計	1	6	10	13	12	4	3	45.4歳	49

■障害支援区分（令和４年３月３１日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	2	2	3	1	12	3	4	3.63	27
女	2		2	4	6	3	5	3.86	22
計	4	2	5	5	18	6	9	3.73	49

■在所年数（令和４年３月３１日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	計
男	1		5		6	5	10	27
女				3	6	4	9	22
計	1		5	3	12	9	19	49

■開所日数及び利用者数・利用日数（令和４年３月３１日現在）

【生活介護】（生産型）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	20	23	20	20	21	21	21	21	21	19	23	252
実人数	男	13	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	138
延利用日数		266	229	272	234	223	229	225	230	227	229	208	253	2,825
実人数	女	14	14	14	14	13	13	13	12	12	12	12	12	155
延利用日数		256	215	269	213	232	239	241	225	209	224	205	232	2,760

【就労継続B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	20	23	20	20	21	21	21	21	21	19	23	252
実人数	男	15	16	15	15	15	15	15	15	15	15	16	16	183
延利用日数		323	295	330	284	277	295	198	301	296	289	282	222	3,392
実人数	女	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
延利用日数		184	163	194	170	184	173	172	179	181	178	158	189	2,125

■工賃実績（前年対比）

	令和2年度実績	令和3年度実績	備 考
生活介護 (生産型)	目標3,000円 3,577円	目標3,000円 3,446円	収入:1,393,519円 支出:1,086,895円(工賃:910,800円) アルミ缶つぶし・自主製品作成 北原清掃・高架下除草
就労継続 支援B型	目標20,000円 18,470円	目標20,000円 21,311円	収入:12,439,192円 支出:9,213,544円(工賃:5,782,800円) 施設外就労:ひかりの里・足柄療護園清掃 ラルール/印刷・受注作業等

〔5〕日中一時事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		21	20	23	20	20	21	21	21	21	21	19	23	251
実人数	男	4	4	5	6	3	4	4	6	5	5	5	5	56
延利用日数		43	41	53	47	41	44	45	47	44	47	37	48	537
実人数	女	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	8
延利用日数		1	0	0	1	0	0	1	1	1	2	1	1	9

〔6〕令和3年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	権利擁護の確立 方法：その人らしさを創造できる支援場面の展開 ・個別の時間を確実な確保 ・教室での個別課題の再設定 ・ホームの生活場面の支援の質の向上 ・アートに挑戦	全員	一人一人の生活する、権利を考へ、しさを創造できる支援場面の展開が出来た。	コロナの影響もあり、例年通りの活動はできなかったものの、限られた活動の中でアートに挑戦という形で個別支援を行ってきた。その人らしさを創造し、それぞれが工夫をすることで今後につながるような活動となっています。	○
人材育成	職員のスキルアップ 方法：年4回の園内研修会と施設見学等を開催する 1)楽しく研修2)専門性の向上(権利・ものづくり・事例検討・リスク・防災等)	全員	職員の専門性が高まり、日々の支援に活用出来た。	年間を通して計画していた研修は、コロナの状況を踏まえて検討してきたが計画通り実施できなかった。コロナ禍で研修の在り方、実施の仕方など当初の計画を変更する話し合いを持つことができなかったことが滞りにつながってしまった。今後に向けインターネットを活用した研修を活用できるように取り組み始めています。	×
業務の検証と改善	業務の検証と改善 方法：検討委員による検討 ・業務マニュアル・労働環境・防災等の業務の見直し等	検討委員	業務の改善	今年度から始めた改善委員会でしたが、はっきりとした形が作れず、活動としては改善につながる活動につながらなかった。現場からの声をあげる仕組みを試行的に作ったことを有効活用できなかったのが次年度以降仕組みづくりを行い、現場からの声を拾い改善に生かせればと思います。	△
安心で安全なサービスを提供する	安心で安全なサービスを提供する 方法：リスクマネジメント委員会においてひやりハットや事故報告から改善策の確認と検証をする	全員	安心で安全な施設運営	ひやりハットをあげることへの意識付けをすることで、未然に事故等を防げたり、改善するきっかけとなっていた。リスクマネジメント委員会を通して、上がってきたひやりハットからどんな傾向か分析することで改善につながっていることもあるので、継続して取り組んでいきたいと考えます。	○
地域との連携	地域との連携 方法：障がい者の啓蒙活動 ・地域と連携した行事運営 ・「はーとふる通信」の発行	全員	地域の方との一緒に活動する機会を増やすこと、行事等の開催、発信	年間を通してコロナ禍で行事の中止もあり、行事を通しての地域の方との連携は行えませんでした。コロナの落ち着いた状況で、ボランティアさんの受け入れ程度の連携となっています。はーとふる通信は、計画的に行えなかった事で発行が遅れています。	×

〔 7 〕 相談支援…未実施

〔 8 〕 防災……………年 2 回、水害想定と火災想定避難訓練を実施

〔 9 〕 リスクマネジメント（事故報告） 合計 159 件（内 GH は 35 件）

種類	回数	内容等
転倒・転落	29	加齢及び機能低下等により転倒する場面が増加
服薬	13	セットミス・チェックミス等々 ※チェック機能が働いた事例も有り
けが	8	出合いがしらでの頭での衝突、職員へのつねり
利用者トラブル	2	口論から男女間でのトラブル
車輛(送迎含む)	6	物損事故、送迎車への乗車漏れ、車での立ち歩き、鍵の返却忘れ
物品破損	4	トイレの鏡を頭突きで、ドアや壁を蹴飛ばして破損
その他	97	食事、弁当の発注ミス、園外へ無断で出てしまう、通院日の連絡ミス等

《重大事故》 ※県・市町へ報告はなし

〔 1 0 〕 苦情解決… 苦情件数 0 件

【 あずさの家 】 令和3年度事業報告書

〔1〕運営目標

- 1 利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
(利用者さんの最善の支援を検討します。)
- 2 利用者さんの目標達成に向けた取り組みを推進します。
- 3 研修を充実させて職員のスキルアップを図ります。
- 4 地域活動・行事に参加・協力するなど啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。

〔2〕取り組みと状況報告

- 1 園と一緒にリスクマネジメント委員会にて、ひやりハットを分析して対策をとることで、未然に事故等を防げたり、改善することが出来ています。
ひやりハットをマイナスではなく「気づき」として捉えて提出できるように、気づきノート等を活用しています。
食席や日課など、利用者さんの生活環境の見直しを行い、安心安全なサービスが提供できるように協議しています。
3 ホーム合同の行事は開催できませんでしたが、各ホームで工夫しながら楽しめることを実施しています。
- 2 園の担当者と協力しながら、ホームでの生活の中でも個別の時間を設定して、取り組むことがまだまだ十分に出来てはいません。
- 3 コロナ禍の中、園と一緒に9月に「口腔ケアに関する研修会」、11月に「地震・水害対策」、1月に「障害者の権利擁護」の職員研修会を開催するとともに、グループホーム職員対象の外部研修会に参加することが出来ました。
- 4 地域活動・行事等は、コロナ禍のため地域行事等が開催されていないため深めることが出来ませんでした。

〔3〕次年度に向けて

- 1 リスクマネジメント委員会で協議した内容が、ホーム内で共有できるように、3 ホーム会議でも協議して、「ひやりハット」を積極的に提出して、利用者さんの安心安全なサービス提供が出来るように、職員の意識改革を図っていきます。
防災委員会では、防災グッズの整備を進めていきます。
- 2 利用者さんひとり一人がホーム内で楽しめることを一緒に考えるとともに、みんなで楽しめることを企画していきます。
- 3 職員研修会は、企画立案するとともに、インターネットを活用した研修に参加出来るように環境整備をしていきます。

- 4 コロナ禍のため、行事等は計画を立てにくい状況にありますが、感染対策の上利用者さんが楽しめるように、工夫した形で開催できるようにします。また、園の広報誌である「はーとふる通信」を広報委員会にて協議して発行していきます。

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和４年３月３１日現在）

最年少：２１歳 ・ 最高齢８７歳

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男		1		3	2	3	2	55歳	11
女			2		4		1	51.9歳	7
計		1	2	3	6	3	3	53.8歳	18

■障害支援区分（令和４年３月３１日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男			2	2	5	1	1	3.73	11
女			1	3		2	1	3.86	7
計			3	5	5	3	2	3.78	18

■在所年数（令和４年３月３１日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
男	1		1	5	4			11
女				1	6			7
計	1		1	6	10			18

■開所日数及び利用者数・利用日数（令和４年３月３１日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	122
延利用日数		269	253	262	253	244	269	246	240	250	237	226	3,046
実人数	女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
延利用日数		205	210	204	212	210	204	207	206	213	214	189	2,483

〔５〕短期入所事業…ポプラの家のみ実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	1							4	6	6	6	6	29
延人数	1							4	7	6	6	6	30
延利用日数	2							10	17	16	16	15	76

※11月より再開している。

〔 6 〕 相談支援…未実施

〔 7 〕 令和 3 年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

※梅香園の品質活動報告に準じる

〔 8 〕 防災… 水害想定と火災想定した避難訓練を実施しました。

防災備品を整備しています。

※スプリンクラー設備設置について

小田原市消防本部に、スプリンクラー設備を設置しなくてよいことを確認しました。

〔 9 〕 リスクマネジメント（事故報告）

※梅香園のリスクマネジメント委員会に参加しているため、梅香園のリスクマネジメントに記載している。

〔 10 〕 苦情解決…苦情件数 0 件

【わらべの杜】 令和3年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

児童の安心・安全な生活の確保、本人・保護者に寄り添いながら丁寧な移行支援を実施。過齢児1名の移行先の調整等、中学生・高校生が半数以上を占めるようになり、より地域移行への支援が多くなっています。

移行後の定員の確保にも不安定さがあり、児童の生活の安定と入所ニーズとのマッチングの難しさもありますが、児童相談所との連絡調整をしっかりとこなっていくことで、受け入れについての丁寧な対応と安定した運営を心がけていきたいと考えています。

〔2〕 取り組みと状況報告

○ 地域移行と自立支援

過去最大の9名の高3生の送り出しとなり、コロナウイルスの影響で3名が卒業までに進路が決まらない状況となりました。また、児童の中には、成人施設へ行くことの理解はできていても、気持ちがついていかず不安定になることも見られ、職員との相談で気持ちを安定させている児童も多数おり、人生の大きな移行期となる時の心の寄り添いがとても大切であることを強く感じました。自立支援は心の成長の支援とともにあることを意識し、今後も取り組んでまいります。

○ 権利擁護と虐待防止への取り組み

各寮でこども会議を継続し、児童の生活の質を高める意見交換ができてきています。児童の発達の段階に合わせたSSTの実施や児童相談所にも参加していただいた会議設定など、マナー化しない取り組みと一歩踏み込んだ内容で実施してきました。「ぼくたちはこう考える」ということを否定せず、受け止め、一緒に考えていくことを大切に進めてきました。グループダイナミクスを意識した取り組みを継続していきます。

○ 地域活動への参加

「地域の中で施設として何ができるか？」を考えてきましたが、コロナにより地域と関わりを持つ機会を失い、積極的な交流ができない1年となってしまいました。

〔3〕 次年度に向けて

コロナウイルスの影響含めて“安心・安全な暮らし”の提供とは何か？を考え、児童の気持ちを汲み取り、寄り添うことを大切に、次に何ができるかを見つけていくよう前進していきます。

- 感染防止対策の強化：コロナウイルス以外の感染症に対しても対応可能となるよう対策を検討（BCPの策定）
- 児童の楽しみ作り：室内外に関わらず、新しい楽しみ方の模索
- 職員の働きやすい環境作り：労働環境の見直し・改善
- 職員研修の実施：オンライン研修を積極的に活用し、支援スキルの向上を目指す。可能

であれば他施設研修も実施し、実践の中で学べる機会を設定。

- 法人内事業所間での連携強化：成人施設へ移行した方のフォローアップに努めます
- 地域社会との交流：地域の一つの拠点としてできることを積極的に考え動いていきます。

〔４〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和4年3月1日現在）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	5	6	14	4	0	14.3	29
女	0	3	1	5	2	0	14.5	11
措置	0	7	7	16	5	0	14.2	35
契約	0	1	0	3	1	0	15.0	5

最小年齢：8才・最高年齢18才

■在所年数（令和4年3月1日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	3	0	6	2	3	15	0	0
女	3	0	3	1	2	2	0	0

■開所日数および利用者数・利用日数（令和4年3月1日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数		30	31	30	31	31	31
実人数	男	28	29	29	29	29	29
延べ利用日数		840	899	870	899	899	868
実人数	女	10	10	10	10	10	10
延べ利用日数		300	310	300	310	310	341

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		31	30	31	31	28	31	366
実人数	男	29	29	29	29	29	29	347
延べ利用日数		899	870	810	899	308	899	9960
実人数	女	10	10	10	10	11	11	122
延べ利用日数		330	341	330	330	308	341	3851

■療育手帳程度別在所者数（令和4年3月1日現在）

	最重度	重度	中度	軽度	
					手帳無し
男	2	4	6	17	0
女	2	2	1	6	0

令和3年度新規入所児年齢（入所時）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計
男	0	2	0	0	2
女	0	1	0	1	2
措置	0	3	0	1	4
契約	0	0	0	0	0

令和3年度退所児者の状況①（令和4年3月31日）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計
男	0	0	0	1	2	3
女	0	0	0	0	3	3
措置	0	0	0	1	5	6
契約	0	0	0	0	0	0

令和3年度退所児者の状況②（令和4年3月31日）

	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他
男	1	2	0	0
女	1	1	1	0
措置	2	3	1	0
契約	0	0	0	0

〔５〕 短期入所事業及び一時保護

■短期入所														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ人数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■一時保護														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	5
延べ人数		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	5
延べ利用日数		0	0	0	0	0	0	0	4	7	25	0	5	41

〔６〕 令和３年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	【1寮】 ◆子ども会議の発展・質の向上。	1寮職員 中心	子ども会議で模擬店出店を目標に衛生面、経済面、役割分担、モラル、挨拶などの大切なポイントを学び、実践し、社会性の向上へと繋げる。	「子ども会議の発展・質の向上」という目標に対し、今年度は衛生面や協調性を意識したランチ作り、下半期は準備等運営・実施メンバーと協調、評価までを行う「さらさらお掃除隊」の計2回、プログラムを実施しました。 1月の清掃プログラムでは、事務所前玄関を実施。他の方も利用する玄関掃除する事から評価を行い振り返り。今後は、寮以外の方にも介入して頂きステップアップを目指す。	○
	【2寮】 ◆隔月で行っているSSTを継続し、児童等の発言できる機会を増やしていく。	2寮職員	SSTでの内容が実生活の中で反映され穏やかな関わりを持てる時間が増える。自分の意見を積極的に発言できるようになる。	発達に合わせグループワークを展開する事で今の自分に必要なコミュニケーションや今後考えて行かねばならない事などを学習できる良い時間となったと感じている。 起床時や就寝前の挨拶に加え、子どもたちからの発信が増えてきたと評価している。	○
	【3寮】 ◆子どもたちが、意見の発信をしやすい子ども会議を実践していく(3寮)	3寮職員 中心	ゆめユニットの子どもたちが気軽に意見を出すことができ、それに対して盛んな意見交換ができた。	ゆめユニットの年齢や特性によって、全員の子どもに適した運営が難しくなってきた。そのため、小学生と中学生の2つのグループに分けると皆が積極的に参加する姿が見られた。特に小学生グループは年長者がいなかったためリラックスした様子で穏やかに取り組んでいた。また、職員側も各グループに適したものを用意しやすかったように思う。来年度も2つのグループで行う事を基本に、必要に応じて変化させながら取り組んでいきたい。	○
人材育成	【3寮】 ◆ユニット会議にて、職員が持つ支援に対する不安感や疑問点を共有する時間を作り、解決に向けて話し合っていく。	3寮職員 を中心として	積極的な意見交換を行い不安感を払拭することが出来た。解決策を支援に活かし、各職員のスキルアップに繋がった。	各職員の困り感を共有する事で、安心感を得られるだけでなく、場面に直面した時はサポートし合ったり、複数で対応したりと対策の講じやすさを感じた。職員の悩みを全体の悩みとし、皆で検討して解決策を得られることはチームワークの向上にも繋がったと感じる。十分なスキルアップにはまだ遠いが、来年度も継続して行きたいと思う。	○
	◆他施設研修を実施し、直接支援業務にあたる職員への発想の広がりやスキルアップを目指す。	施設長 直接支援職員	全ての職員が他施設研修を経験し、発想の広がりを持つことができた。	コロナウイルスの影響のため、他施設への研修は実施せず。オンライン研修が充実してきたため、研修参加をオンラインに切り替えて実施してきました。	△
業務の検証と改善	【1寮】 ◆安定した業務の土台づくりを目指す。	1寮職員 中心	1寮の特質を意識し子どもたちの安心・安全な環境を維持するために、日々の支援環境の改善を意識し、生活の質向上と職員の心身の安定へと繋がった。	下半期は寮内環境の向上に向けて、子ども達の協力を得ながら掃除出来なかった場所を含め実施してきました。建物の外壁汚れやコケの付着した窓ガラス等を子ども達と一緒に実施。綺麗になっていく状況を子ども達と共感することが出来ました。今後も定期的に実施していきたいと思っています。	○
	【2寮】 ◆業務の効率化を図る	2寮職員	学校の宿題や持ち物等を始め児童の生活面での支援において職員側の動きを再構築し、職員間で共有。職員が業務についての困り感が無く職務にあたる事ができる。	生活面全般において動きの再確認と周知を目指してきたが、コロナウイルスへの対応にて生活の流れの変更、確認が中心となり本来行いたいと思っていた職員側の動きの構築には至っていないと感じている。しかしながら、コロナウイルスの感染状況により次々と変動していく生活面の流れの中で、対応を周知、徹底しよく対応してくれたと職員には感謝している。	△
地域連携会との	◆地域行事への参加を模索	わらべの杜 職員	昨年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、地域行事は軒並中止となったが、今年度は、地域行事の開催が徐々に緩和されていくことが予想される。開催された地域行事への積極的に参加する。	コロナ禍な1年であったものの、開催されるスポーツイベント(サッカー大会 駅伝)に参加することができたことは、大変意義があることだったと思います。今後もイベントの縮小または、中止が余儀なくされることも考えられるが、地域行事が軒並み開催される可能性もある。その際は、積極的に参加することを検討したい。	△

〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4月・6月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月	避難・通報・消火	全利用者	地域消防団との合同訓練はコロナのため今年度も中止。地震を想定した訓練を増やし、現実的に起こりうるイメージを持てるよう取り組みました。
5月・7月8月・	【夜間】 避難・通報・消火		

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転 倒 / 転 落	0	
服 薬	4	笑い過ぎて吐き出しそうになった／笑い過ぎて薬の入ったコップをこぼしてしまう／朝食時の服薬忘れ（児相報告）／床に1錠落ちていた
ケ ガ	0	
利用者トラブル	1	児童が他児の顔を叩いてしまい鼻血（児相報告）
車 両	0	
物 品 破 損	0	
そ の 他	1	職員が玄関ドアを開けた際に児童がダッシュし事務所前まで行ってしまった

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
2月6日 ～ 3月1日	コロナウ イルス感 染	児童1名が2月6日に陽性確認後、同ユニット内児童および職員2名の陽性確認。最終的に児童7名の感染となり、全9名の陽性。	1ユニットをレッドゾーンとし、8日間夜勤体制を強化。また、レッドゾーンに入る職員は限定し法人内から応援職員5名が入り対応しました。	保健所、県クラスター対策班への報告を行い、保健所からの指示のもと、3週間ほどの健康観察期間を経て3月1日に全面解除となった。

〔9〕 苦情解決

件数 0件

【どーむ（童夢）】 令和3年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

本人、保護者の思いに寄り添い、思いの共有と共感、達成感の積み重ねをしていくことで、将来に向けた基本的生活習慣、対人コミュニケーション、言語等、様々な成長を支援していくことを目指します。

本人の発達の段階に合わせた発達支援を行い、達成感を持てるよう取り組んでまいります。

〔2〕 取り組みと状況報告

早期発達支援として、本人の成長段階を見極め、必要に応じて個別支援を実施してきました。コロナ禍ということもあり、関係機関とのカンファレンスや併行通園先への訪問も少ない状況となってしまいましたが、可能な限り一人ひとりの情報を共有し、目標に向けて取り組んできた1年でした。“遊び”を通し、人とのコミュニケーション力の向上を図り、ルールの理解もできてきました。

何より、子どもたちが元気よく登園してきてくれる姿を見ることがや、連絡帳で保護者が「どーむに行くことを楽しみにしています」と書いてくださることが嬉しく、私たちの力になっていると感じた1年でした。

また、通っている子どもの特性に合わせ環境設定の改善にも取り組み、その日、その場に合わせ机やイスの配置等を考え、刺激の減少、危険予防といったことに配慮しながら行ってきました。

今年度はコロナウイルス感染の影響により、一時的に休園措置をとることが発生し、ご本人、保護者の皆さまには多大なご迷惑をおかけしたことをあらためてお詫びし、この場をかりてご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。

〔3〕 次年度に向けて

年度当初は年長児が抜けてしまったため契約者数は少なく、徐々に増加していく傾向は変わりませんが、年間を通して安定した運営となることを目指していきます。

お子さんの入れ替えがあるため、マッチングの状況を確認しながら子どもたちにあった環境設定にも力を入れ、より安心・安全な発達支援に取り組んでいきます。

次年度は年長児が多く、就学に向けたプログラムへも積極的に進めていき、関係機関等の地域社会との交流を深め、より一層の連携に努めていけるよう取り組んでまいります。

また、今までどーむとしてのフォローアップは実施できておりませんでした。卒園した児童に対してのフォローアップも実施していきたいと考えております。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和4年3月31日現在）								
	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計	
男	0	0	2	10	9	5.3	21	
女	0	0	2	5	0	5.4	7	
最年少：4才								
■在所年数（令和4年3月31日現在）								
	1ヶ月未満	1ヶ月～3ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上			
男	2	0	5	12	2			
女	0	0	3	4	0			
■開所日数および利用者数・利用日数（令和4年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
開所日数		21	20	21	20	19	21	122
実人数	男	16	17	18	18	18	18	105
延べ利用日数		68	50	72	56	55	71	372
実人数	女	4	5	5	5	5	5	29
延べ利用日数		24	22	27	21	19	26	139
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	19	20	20	19	21	121
実人数	男	19	19	19	19	19	21	116
延べ利用日数		68	66	67	59	25	63	348
実人数	女	5	5	7	7	7	7	38
延べ利用日数		23	24	29	24	10	25	135
■住所地（令和4年3月31日現在）								
	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	二宮町	伊勢原市	
男	19	1	0	0	0	0	1	
女	6	1	0	0	0	0	0	
■入退所状況（令和4年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
入所	男	2	1	1	0	0	0	2
	女	0	1	0	0	0	0	1
退所	男	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	1	0	0	0	0	2	2
	女	0	0	2	0	0	0	2
退所	男	0	0	0	0	0	9	9
	女	0	0	0	0	0	0	0
■利用の経緯（令和4年3月31日現在）								
	発達相談	市町子育て	健康づくり課	つくしんぼ教室	他			
男	7	2	4	5	3			
女	3	1	1	1	1			
計	10	3	5	6	4			

〔5〕令和3年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
人材育成	◆各研修への参加、他事業所や併行通園先への訪問による経験を積み見識を深める	全職員	全児童の併行通園先の訪問を実施し、療育としての視野を広げ見識を深めることができた	併行通園先へは合間をぬって訪問することができた。訪問先とのつながりもできるようになり、初回以外の併行通園先には電話等でやりとりをしてきました。気軽な連絡調整や意見交換ができるようになってきました。	○
業務の検証と改善	◆業務日誌の記載やその他記録類の見直しを図り、より効果的かつ効率的な情報整理と業務遂行を目指す	全職員	業務日誌の記載や、その他記録類の記載について、効果的かつ効率的な業務遂行が可能となった	あまり大きく記録の簡略化はできなかったが、記載内容についてはしっかり見直すことができました。必要な内容を簡潔に記録していく方法の良い学ぶ機会となりました。	○

〔6〕防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月1回	避難・通報・消火	全利用者	一人1回は体験できるよう曜日を変えて実施。緊張感を持つことは難しい状況。

〔7〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	3	屋外活動時の転倒（ケガ無し）
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	大きなケガにつながるようなものはないが、毎回利用時に激しい暴言等が見られる児童がおりトラブルは多発。
車両	0	
物品破損	1	スライム遊び後の手洗いにより、排水溝の詰まりが発生
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
2月27日 ～ 3月3日	コロナウイルス感染	週1日利用している児童が家族感染により陽性。	保健所、市へ報告。接触のあった各家庭へ連絡し体調面の変化がないことを確認。休園中は各家庭へ体調確認の連絡を継続。拡大はなかった。	休園日だったこともあり、保健所の指示により3月3日まで休園。再開後、昼食時の対応等見直しを図り、時間差で昼食をとるように変更。

〔8〕苦情解決

件数 0件

【 ぽけっと 】 令和 3 年度 事業報告書

〔 1 〕 運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指します。また、これまで取り組んできた虐待防止体制（権利擁護）を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキルの向上を図ることを運営目標とします。

〔 2 〕 年間のまとめ

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」について、県西障害保健福祉圏域を中心に、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援および生活支援を行いました。

<今年度の目標と実績>

項目	就職件数	実習件数	就職率	定着率（1年）
目標	41 件	21 件	55%	79.4%
実績	51 件	40 件	68%	91.2%

今年度も就職者数等の数値目標を掲げ、実績は全て目標値を上回りました。

コロナ禍でも前年度の反省を踏まえ、①職安との連携（チーム支援）強化 ②中小企業同友会の入会による職員意識改革 ③県西圏域（足柄上下郡）自立支援協議会の連携強化（行政・事業所との横の繋がり）に取り組み、実績につながりました。

事業主支援においては、要望もあり、障害者雇用に関する講話・ディスカッション（新規雇用先・既雇用先）や企業交流会（オンライン）の実施をしました。行政・関係機関とのネットワーク構築としては、自立支援協議会就労支援部会の活動として、足柄上地区・下地区での打ち合わせ、部会を合計 11 回実施。小田原市とは困窮者や引きこもり等の支援に対し、連携の為の意見交換やガイドライン共有の呼びかけをしました。

登録者の定着・就労促進の為、対面でのピア活動は 3 回、勉強会、合同面接会練習への一連の取り組みを実施しました。緊急事態宣言期間には、オンライン上での対面実施も検討しましたがハード・ソフト面で現実的でなかった為、オンラインでのアンケートや勉強会資料の郵送・電話対応など、工夫しての実施となりました。

人材育成ではオンライン研修の積極的な活用により、職員全体の支援力の底上げにもつながったと感じます。

〔３〕次年度に向けて

より円滑でスピーディな支援提供のため、職員配置・役割を変更し、所内連携（内部コミュニケーション）の再徹底を図ります。実績目標は今年度同水準とし、数値のみでなく、質として満足できる結果となるよう、職員の資質向上を目指します。関係機関・行政（福祉課等）との関係性構築を進め、連携による地域の就労支援力強化、環境改善に努めます。また、次年度より職安とのチーム支援会議を発足させ、就労系サービス事業所との連携含め、県西地区一体での就労状況の共有と改善の取り組みを図ります。

登録者交流・行事についても、ピア活動で要望のあったフリースペース等の試みを行うと同時に、精神障害向けに関わらないセミナー等の企画を検討していきます。

〔４〕登録者状況

■開所日数および延べ相談支援件数(令和4年3月31日現在)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数	24日	21日	25日	23日	24日	23日	
相談支援件数	333件	330件	380件	362件	306件	407件	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談支援件数	24日	24日	23日	22日	21日	25日	279日
合計	363件	336件	366件	335件	333件	418件	4269件
■市町村別相談支援件数							
小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	南足柄市	中井町		
2197	155	20	133	501	86		
大井町	松田町	山北町	開成町	その他	合計(件)		
149	211	215	216	386	4269		
■就業支援年間実績(令和4年3月31日)							
新規登録者数	職場実習 斡旋数	就職者数	1年以上 離職者数	1年以内 離職者数			
86(41)	40(25)	51(25)	14 (5)	10 (5)			

※（ ）は精神障害者の数を表す

〔５〕令和３年度事業報告 ※各事業所の課題および実施状況

【項目】 具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
【権利擁護】 ・地域において求められる権利擁護について、外部講師を招くなど、所内勉強会を実施する。	所長 課長	・要請される権利擁護の明確化	自己チェックと、集計結果から意見交換を実施。支援の根幹となる支援方針への意識向上の為、各ラインでのプレゼン作成、実施をした。2回目の自己チェックで、利用者、登録者への支援方針説明や、提供すべき	○

・チェックリストの実施、見直しをし教育項目への反映をしていく。		・効果測定をチェックリストを通して定期的に行う。	支援について、理解が深まった。 勉強会については、虐待が窺われるケースにつき、3月に実施した。	
【人材育成】 ・支援記録をより良いものにしていく取り組みを行う。 ・ケース検討する力を所内で高め、支援力につなげていく。	全職員	・開示に応じれる支援記録を作り上げる。 ・年間を通じてケース検討を続け、スーパーバイズができる職員集団を目指す	記録について、毎月の会議での確認を実施。良い記録、月間MVP、実習時記録の確認、共有すべき内容について話し合い、目的を持った記録への意識向上に繋がった。ケース検討については、上半期は困難ケースの対応、下半期はライン内ケース検討、1月、2月の全体ケース検討を企画、実施。多角的な見方の発想・組立てをチームで考え支援力につなげたい。	○
【業務の検証と改善】 ・PKP（ぼけっと改善プロジェクト）による、定期的な就業環境改善等の活動。 ・ムリ、ムダ、ムラをなくすための業務の見える化への取り組み。	PKP担当職員	・PKPを組織化して、意見を反映させる。 ・個々人に帰属している業務の見える化し、シェア出来る仕組みを考え導入。	現場職員での毎月の会議、提案に対しては、取り組み、実施ができた。業務の見える化では、業務間の優先順位の共通認識、突発対応時のフォロー体制等、まだまだ課題があると感じられる。ライン間のスムーズな連携の為の見える化では、共有シート等の定着に向けて見直しをしながら進めたい。	○
【地域社会との連携】 ・地域資源との連携を目的とした訪問。 ・ピア活動の発信。	担当職員	・地域資源と顔の見える関係づくり。 ・活動の拡充・発信をすることで地域への障害者の認知を高める。	各福祉課、地域活動支援センターへの訪問、小田原市福祉政策課や、青少年課と連携に向け意見交換を実施。連携・引継ぎへの基盤となった。 ピア活動の発信では、オンラインの活用や、報告書の送付により未参加者や、関係機関へ周知を図り、地域での精神障害の啓発への一歩と感じている。次年度は地域への発信をさらに意識する。	○

〔6〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	—
服薬	0	—
ケガ	0	—
利用者トラブル	0	—
車両	0	—
物品破損	0	—
その他	0	—

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
0 件	—	—	—	—

〔7〕 苦情解決

苦情件数 0 件